

障がい者当事者論

[講義・演習] 第2学年 前期 必修 1単位

《担当者名》○長谷川純子 j-hasegawa@hoku-iryu-u.ac.jp 佐藤一成 浅野葉子 小林健史 若松千裕

【概要】

身体的・精神的障がいを持ち、社会的支援を必要とする当事者や家族について、その生活の実際を把握し、人間存在の多様性とエンパワーメントの視点を有したリハビリテーション実践法を理解する。

【学修目標】

一般目標

リハビリテーションの対象となるヒトの「生活」を理解するために、地域在住高齢者や障がいを有する方々の日々の生活の様子に関する話や意見交換を通じて、具体的な生活のしづらさや工夫などについて説明できる。

行動目標

1. 障がいを有しながら日々生活されている方々の日常生活のお話を通して生活の中での工夫や問題について列挙することができる。
2. 国際生活機能分類（ICF）に照らし合わせながら、その方の生活機能をとらえることができる。
3. 障がいを有する方やその家族の方にとって、リハビリテーション専門職がどのような役割を果たしているのかを列挙することができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	講義オリエンテーション 障がい当事者や家族の語りから学ぶ意義	講義の位置づけ、進め方、評価方法等に関する説明 国際生活機能分類（ICF）について 障がい当事者や家族の語りから学ぶ意義	長谷川純子
2 ） 3	障がい当事者による特別講義	さまざまな障がいの方の生活を理解する	全担当教員
4	振り返り	2 - 3回の講義内容に関するディスカッション	全担当教員
5 ） 6	障がい当事者による特別講義	さまざまな障がいの方の生活を理解する	全担当教員
7	振り返り	5 - 6回の講義内容に関するディスカッション	全担当教員
8	全体まとめ	障がい当事者の方や家族の方の生活を振り返り、生活支援者としてのセラピストの役割を理解する	長谷川純子

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

提出課題にて100%評価する。

【参考書】

障害者福祉研究会 編 「ICF 国際生活機能分類 国際障害分類改訂版」 中央法規出版 2002年

【備考】

実際に障がいをお持ちの方々が来校され、講義して頂きます。その際に、その方々が気持ちよくお話し頂けるような雰囲気を作っておいて下さい。皆さん一人一人の意識で、快適な空間となるよう取り組んでください。

【学修の準備】

オリエンテーション時にどのような障害をお持ちの方が来校されるか情報提供する。障がい当事者の障がいや疾病について事前に十分に予習しておくこと（80分）。

復習は、実施した講義内容や自身が作成したICF項目について、参考書等を活用しながら学習を深めること（80分）。

(2026年度・リハビリテーション科学部)

【ディプロマ・ポリシーとの関連】

DP3:リハビリテーションの概念を深く理解し、保健・医療・福祉をはじめ多様な分野の専門職種と連携・協働し、対象者中心のチームアプローチを実践する能力を身につけている

【実務経験】

医療機関及び介護保険施設・行政からの委託事業

理学療法士：長谷川純子 佐藤一成

作業療法士：浅野葉子

言語聴覚士：小林健史 若松千裕

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関及び介護保険施設・行政からの委託事業での実務経験を活かし、講義する。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している